

大学名等	弘前大学大学院医学研究科
教育プログラム・コース名	地域がん医療を推進する次世代放射線治療医育成コース（正規課程）（テーマ①）
対象職種・分野	医師・放射線治療
修業年限（期間）	4年
養成すべき人材像	・がん医療の現場において、緩和的放射線治療から高精度放射線治療さらに核医学治療や小線源治療も含めた質の高い専門医療を個々の患者さんの病態に応じて提供することができ、かつ地域がん診療拠点病院において中心的役割を担うことができる医師
修了要件・履修方法	所定科目合計30単位以上の履修と実習を修了し、かつ学位論文を作成した上で、学位審査および最終試験に合格すること。
履修科目等	<p><必修科目> 基礎科目6単位、学際科目4単位、所属研究分野の専門科目（地域医療診療実習、がんゲノムパネル検査実習・演習他）16単位</p> <p><選択必修科目> 腫瘍関連学際領域特論、次世代腫瘍予防学特論、臨床腫瘍研究開発学特論から2単位</p> <p><選択科目> 臓器別がん治療、放射線基礎、外科病理診断学基礎、緩和基礎、成人教育論他から4単位</p>
がんに関する専門資格との連携	放射線科専門医（日本医学放射線学会）、放射線治療専門医（日本放射線腫瘍学会・日本医学放射線学会・日本専門医機構）の基幹研修施設として認定。がん治療認定医（日本がん治療認定医機構）の研修施設として認定。
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	がん医療に係る人材不足によりがん診療連携拠点病院の指定変更を余儀なくされる青森県の諸課題を解決するためには、地域に定着する放射線治療医の育成が急務である。当施設では高エネルギーX線による高精度放射線治療を始め、密封小線源、核医学治療、がん温熱療法など、粒子線治療以外のすべての医療資源を備えており、粒子線治療については他施設と連携して教育・研修ができる体制にある。
指導体制	大学院の腫瘍制御科学領域の放射線腫瘍学分野が教育プログラムの主体となり、各教育研究分野の指導者が協働して担当に加わる。連携大学および、地域の関連医療機関・教育機関において、地域がん医療実習を行う。また、医師以外のメディカルスタッフ関連団体や行政と連携して教育体制を整備する。
修了者の進路・キャリアパス	放射線科専門医、放射線治療専門医を取得し、がん治療認定医および日本医学放射線学会研修指導者を目指す。様々ながん医療従事者と協力し地域のがん医療の現場を担うことができる放射線治療医となる。